

実践 森づくり技術講座 第2回

タイトル：FIT 森林塾：実践・森づくり技術講座（第2回）

開催日：2018年5月19日（土）

開催場所：鳩ノ巣フィールド（奥多摩町棚沢）

主催者：FIT 森林塾

一文紹介

森づくりに欠かせない様々な技術を基礎から学ぶ全5回の連続講座の第2回

公開記事

森づくりに欠かせない様々な技術を基礎から学ぶ全5回の連続講座の第2回。

今回は「安全管理と下刈り」をテーマに、5月19日（土）に開催しました。

（本文）

ここ数日、真夏を思わせる暑さに少々驚いていましたが、技術講座第2回を開催したこの日は、幾分、気温も下がった薄曇りのなかでの開催となりました。

今回のテーマは「安全管理と下刈り」。下刈り実習を行う場所が、鳩ノ巣フィールドの最上部ということもあり、開校式、準備体操の後、適宜休憩をとりながら、フィールド最上部を目指してゆっくり移動しました。途中で、ツタとツタウルシが杉の木の下に張り付いているところがあり、これらの違いを実際に目でみて（触らないで）確認してもらいました。

最上部に到着した後に、まず「なぜ安全管理が必要か？」を考えることから講義がスタートしました。

講義のなかでは、野外活動における様々な危険について、再認識した上で、森林インストラクターとして、参加者の安全管理上、どういったことに注意し、行動するのがよいかなど、具体例を交えた話がありました。その後、本日の実習で使う大鎌の使い方についての話を聞いて、午前中は終了。ツキノワグマのクマ棚や、アナグマの巣穴などがすぐそばにあるこの場所を、私たちも食事の場所として使わせてもらいました。

午後は、2班に分かれて下刈り実習を行いました。多くの参加者が大鎌を使うのは初めてで、斜面での作業ということもあり、最初は思ったように草が刈れずに、とまどう方もいました。ただ、要所要所での講師からの個別のアドバイスもあり、時間が経つにつれ、少しずつリズムカルな動きへと変わっていきました。時間内で予定していた箇所の下刈りをほぼ終えることができ、下山となりました。

最後に、河原で砥石を使って、大鎌の手入れをして、本日のプログラムは無事終了しました。

参加者の皆さんからは、「大鎌は初めて使ったが、思ったより難しかった。」「下刈りを終えた後の達成感があった。」「自身の安全管理はもとより、森林インストラクターとして如何に参加者の安全管理を確保していくかを身につけるためには、現場経験を積む必要があると感じた。」といった感想がありました。

報告者：森林塾事務局 松浦 重徳



ツタとツタウルシの違いを観察



安全管理の講義の様子



大鎌の使い方（講義）



下刈り実習風景（1）



下刈り実習風景（2）



道具の手入れ